

『世のために尽くさん』



私たちは、これからそれぞれの道に進むこととなりますが、「興譲の精神」を心に刻み、この学び舎で友人たちと過ごした日々を胸に、精進したいと思います。



＊門出の言葉

卒業生代表 小林 千紗
(高畠二中出身)

思い起こせば、三年前、高校生活への大きな期待と少しの不安を抱え、入学式を迎えたことを今でも鮮明に覚えています。

「文武両道」を目指し、学業や部活動に取り組んできた私たちですが、その道のりは容易なものではありませんでした。しかし、仲間たちと共に、時に笑い、時に涙し、この三年間を過ごしてきました。語りつくせぬほどの思い出や絆は、私たちの一生の宝物となることでしょう。

このような思い出を支えてくださった方々に感謝を述べたいと思います。本当にありがとうございました。

私たちは、これからそれぞれの道に進むこととなりますが、「興譲の精神」を心に刻み、この学び舎で友人たちと過ごした日々を胸に、精進したいと思います。



興譲館だより

Yonezawa Kojokan High School

第32号

平成27年3月24日発行

山形県立

米沢興譲館高等学校

〒992-1443

山形県米沢市大字笹野1101

TEL 0238-38-4741

FAX 0238-38-2531

<http://www.yonezawakojokan-h.ed.jp/>

＊はなむけの言葉

在校生代表 野々村 路子
(米沢二中出身)

先輩方は行事に限らず普段から勉強と部活動を両立していました。遅くまで学校に残って学習をする姿を見ると、先輩の夢をつかもうとする熱い思いを感じ、改めて先輩方のような真の興譲館生に近づこうと決意を抱きました。

これから先輩方は、新たな一歩を踏み出し夢に向かって羽ばたいていくことと思います。その道にはつらいこともあるはずです。そのようなときは、興譲館で仲間と共に過ごした日々を思い出してください。三年間で培った興譲の精神は必ず道を切り開いてくれるはずです。その先には「栄光の道」が続いていることでしょう。

私たちが在校生は、先輩方から受け継いだ興譲の精神を後世に伝える義務があります。米沢興譲館高校の栄えある歴史と伝統を守り伝えることをここに誓います。最後になりますが、先輩方のさらなるご活躍を祈念し、はなむけの言葉といたします。





センター試験 激励会 1月16日

1月
20日



予餞会を終えて

センター試験を終えた一次試験を控えた三年生に、応援とこれまでの感謝の気持ちを伝える予餞会が行われました。各クラスそれぞれ個性あふれる発表で会を盛り上げてくれました。三年生だけでなく、一・二年生も楽しむことができました。発表の中で垣間見えるクラスの団結、楽しませようとする気持ち、時間のない中でこれだけの作品を作る興譲館生の力は興譲館生として誇りに思います。

遠藤 七海(米沢一中出身)



アジア大会に出場して 高田 真帆 (米沢三中出身)

3月初旬、アラブ首長国連邦で開催されたフェンシング競技のアジア大会に出場した。とても大きな大会であり、周りの選手も強そうに見えた。初めに行われた個人戦では固まってしまう、いつものプレイができず、ベスト16で終わった。そして、迎えた団体戦、私は気持ちをリセットした。応援してくれる人や教わっている先生を思い浮かべ、このままでは帰れないと思った。結果は優勝。仲間と共に苦戦を制することができた。

今大会を通し、改めて日々の努力や周囲の方々の支えが力となっているのを感じた。今できることを無駄にせず、一瞬一瞬を大切にしていこうと思う。

戦 績

第22回JOCジュニアオリンピックカップフェンシング大会 カデ女子フルーレ (1月9日)

第4位 高田 真帆

第39回全国高等学校選抜フェンシング大会北海道・東北予選会(1月23日～25日)
女子学校対抗 第2位

2015年フェンシング カデヨーロッパサーキット ルーマニア大会 (2月7日～8日)

個人出場 高田 真帆

日本代表団体 第3位 高田 真帆

2015年アジアジュニア・カデ フェンシング 選手権大会(2月28日～3月9日)

個人出場 高田 真帆

日本代表団体 第1位 高田 真帆

第39回全国高等学校選抜フェンシング大会(3月20日～22日)

女子学校対抗 出場予定

全国大会に出場して 高橋 昂士 (米沢一中出身)

僕にとって高校生活で最後のシーズンが終わりました。インターハイや選抜大会、そして山形県代表として国体に参加させていただきました。昨年の試合で肌と感じた北海道や長野県の選手の強さに近づけるよう、夏場には肉体改造に取り組み、また、コンバインドでは苦手のクロスカントリーに力を入れてきました。結果インターハイのスペシャルジャンプでは13位という成績を残すことができました。入賞まで一歩、届きませんでした。最高のジャンプをすることができました。

興譲館の先生方や普段ご指導いただいているコーチの方々、ご支援いただいているOBの方々に深く感謝申し上げます。ご声援ありがとうございました。

戦 績

平成26年度山形県高等学校総合体育大会・第66回山形県高等学校スキー大会
スペシャルジャンプ 2位 ノルディックコンバインド 1位

第86回山形県スキー選手権大会(含一般)

スペシャルジャンプ 3位 ノルディックコンバインド 5位

第70回国民体育大会山形県予選会・少年

スペシャルジャンプ 2位 ノルディックコンバインド 1位

平成26年度全国高等学校総合体育大会・第64回全国高等学校スキー大会

スペシャルジャンプ 13位 ノルディックコンバインド 24位

第27回全国高等学校選抜スキー大会

スペシャルジャンプ 37位

第70回国民体育大会冬季大会スキー競技会

スペシャルジャンプ 25位

ノルディックコンバインドクロスカントリー 棄権

部活動の記録

吹奏楽研究クラブ 全日本アンサンブルコンテスト山形県大会 クラリネット3重奏 銀賞
管打8重奏 銅賞

新聞・文芸部 第13回山形県高校文芸コンクール散文部門 優秀賞 廣瀬 千晶
第36回県高校新聞コンクール 優良賞

調理科学部 館山りんごスイーツコンテスト 準グランプリ 2年 金岡 沙紀



私は初めて雪灯籠祭りに参加しました。今回は、陸上部で一基の雪灯籠を作成しました。雨の降る悪天候で大変でしたが、一人ひとりが真剣かつ丁寧に作業することができました。とても楽しく、充実した時間だったと思います。陸上の練習は個人での練習が多く、みんなで協力して作業する経験がとても新鮮でした。みんなで協力して作った雪灯籠は、きれいな出来栄になりました。良い思い出となりました。



SSH台湾海外研修

SSH台湾海外研修予定概要

月日	実施内容
3 / 3 (火)	移動
3 / 4 (水)	国立清華大学研修 (海外の大学院生との英語によるランチミーティング) 工業技術研究院 (ITRI) 研修
3 / 5 (木)	国立台湾師範大学付属高級中学研修 (英語での研究発表) (同世代間での英語によるランチミーティング) (海外の高校レベルの授業体験) (課題研究活動)
3 / 6 (金)	移動

SSH台湾研修を終えて

丸田 妙華 (米沢二中出身)

今年度で二回目となる台湾研修を無事に終え、私達は日本では経験することができない貴重な体験を沢山してきました。私が特に印象的だった事は師範大学付属高級中学での研修です。現地の生徒と英語での研究発表と交流を行い、英語によるコミュニケーションの大切さを身にしみて感じました。私達は普段、英語をテストなどの問題を解くために学んではいないだろうか、様々な人達と交流をするために、英語を活かすことの難しさを改めて感じました。

私達は理数科として将来、英語に触れる機会が多くなっていくので、今回の研修で学んだことを活かしていきたいです。



東北地区SSH指定校発表会

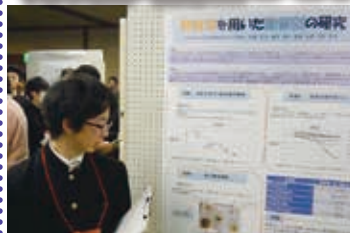
SSH校内研究発表会を終えて

小形 祥史 (川西中出身)

私たちは、F Sの社会と科学のコースで学んだ中で犯罪心理学に興味をもちました。そこで、犯罪心理学をもっと深く知りたいたいと思い犯罪心理学をテーマとし、それを発表しました。

ポスターを作る中で、沢山ある情報の中から選択し、わかりやすく正確に伝えられる程度に絞るのが最も大変でした。また、発表の時は聴衆の興味を引きつけるための工夫にも力を入れました。ただ発表するだけでなく、できるだけ身近でおもしろい内容になるよう工夫しました。

F Sで学んだことやポスター発表はとても良い経験になりました。今後これらを活かして生活できるようにしていきたいです。



東北地区SSH指定校発表会に参加して

安部 悟 (米沢三中出身)

米沢興譲館からは、口頭発表三人、ポスター発表三人の計六人で、岩手県花巻市で行われた東北地区SSH指定校発表会に参加してきました。口頭発表、ポスター発表ともに、大学レベルの研究を行っていた学校や、すべて英語で発表を行っていた学校もあり、レベルの高さを痛感しました。また、弁才に長けていたり、発表スライドが見やすかったりと、私たちが学ぶべきところが多くありました。他の学校の生徒や大学教授との交流や大学教授の講演といった、発表以外にも多くの催しがあり、知識はもちろんのこと、物事をあらゆるアングルから見つめる力もついたと思います。私たちは残念ながら賞に選ばれませんでした。大きく成長できた経験だったと強く感じました。



SSH校内生徒研究発表会

城戸淳二塾に参加して

新藤 弘康 (米沢六中出身)

私は米沢興譲館高校CSSC (コアスーパーサイエンスクラブ) の二年生としてこの度、城戸塾の研究室配属で山形大学工学部電気・電子工学科の原田智親先生の研究室に配属させて頂きました。

私がこの研究室に就きたいと考えた理由は、一年次に行った研究室訪問で回路に興味を持ったことがきっかけでした。私が行った研究は体温を用いて電源を生成する回路を設計するというもので、その測定などには多くの時間が掛かりました。しかし、自分が望んでいた研究だったためか、つまらないといった感情は全く起こらず、むしろもっと研究したいとさえ思いました。発表当日、私は英語を全て暗記することが出来ず原稿を見ながら何とか発表をしました。原稿を全く見ずに発表する生徒も居り、私は改めて自分に英語力が足りないことを痛感しました。

この取組みを振り返ってみると私が研究を行うに当たり、失敗した点に気がきました。回路の知識があまりにも乏しかったために、二ヶ月の間原田先生に教えて頂いた事で研究そのものが遅れてしまったのです。これから配属される自分の後輩たちにはその点に留意し、事前知識が必要になる研究は一年次から配属先の研究室と連絡を取り合い、円滑に研究を進められるようにしていきたいです。

城戸淳二塾 専門研究成果発表会

